

日本結核病学会九州支部学会

—— 第66回総会演説抄録 ——

平成23年6月25日 於 熊本全日空ホテルニュースカイ（熊本市）

（第66回日本呼吸器学会九州地方会と合同開催）

会 長 吉 永 健（国家公務員共済組合連合会熊本中央病院）

—— 一 般 演 題 ——

1. リンチ症候群に合併した肺結核の1例 °團 理・ 廣田暢雄・米嶋聡子・平山裕介・高野浩一・國武律子・ 原田泰子（西福岡病呼吸器）

リンチ症候群とは、大腸癌の1~2%に見られる常染色体優性遺伝疾患であり、大腸以外の臓器・組織にも癌が多発する疾患である。今回、われわれは、このリンチ症候群に肺結核を合併し、化学治療が奏功した1例を経験したため、ここに報告する。症例は49歳女性。前医にて2005年右乳癌乳房切除術、2007年直腸癌手術、同年子宮癌子宮全摘、肝臓転移部分切除術。2008年胃癌胃切除術、2009年大腸ポリープ切除術。2009年12月より咳嗽出現、前医受診し胸部X線、胸部CTにおいて右上葉浸潤影、空洞影を認め、喀痰抗酸菌検査ガフキー1号、結核菌PCR陽性にて当院2010年3月17日紹介入院となった。同年3月20日よりHREZ化学療法開始、5月17日よりHRE、排菌停止、自覚症状・画像所見共に改善したため同年5月26日退院、その後外来加療し、軽度の糖

耐能異常があったため同年12月で投薬終了、以後定期的な外来検査で結核の再燃は認めず、定期通院中である。入院時肺癌の可能性も考慮し腫瘍マーカー、喀痰細胞診を行ったが肺癌を示唆する所見は認めなかった。

2. 肺結核症と肺MAC症の同時発症の1例 °山中 徹・鈴木智子・瀬戸口敬介・坂本 理（NHO熊本南病 呼吸器）中井良一（健康保険人吉総合病呼吸器）

症例は90歳女性。糖尿病、心不全で近医通院中であった。平成23年1月6日低血糖発作で近医受診時に胸部聴診でラ音あり前医紹介受診、胸部X線およびCTで左上葉に空洞を伴う浸潤影と気道散布性粒状影を認め、喀痰抗酸菌塗抹陽性で同日当院紹介入院となった。当院入院時の喀痰3日連続検査でいずれも抗酸菌塗抹3+、PCR法および培養でも *M.tuberculosis*, *M.avium* いずれも陽性であり、肺結核症と肺MAC症の同時発症と診断した。年齢を考慮し肺結核症に対しての治療のみを行っている。